



日本全国  
能楽  
キャラバン

# とがち帯広能楽喜多流公演



狂言 寝音曲 山本則秀  
能 船弁慶 塩津圭介

日本全国 能楽キャラバン! in とがち帯広

令和5年 10月8日(日) 13:30 開場  
14:00 開演

帯広市民文化ホール (小ホール)

■ 料金 全席指定 (税込) ■ 前売開始  
S席 ¥7,000 / A席 ¥5,000 令和5年 7月3日(月)

■ お申し込み・お問合せ  
公益財団法人十四世六平太記念財団 Tel. 03-3491-8813 (10:00~18:00 休館日あり)  
喜多能楽堂オンラインチケット予約 <http://kita-noh.com/ticket/>



主催：公益社団法人能楽協会・公益財団法人十四世六平太記念財団・とがち帯広能実行委員会  
後援：帯広市、帯広市教育委員会、北海道十勝総合振興局、北海道教育庁十勝教育局  
助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業 (アートキャラバン2))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

## チケット予約購入のご案内

### インターネット

- 喜多能楽堂オンラインチケット予約 (要登録・無料)

<http://kita-noh.com/ticket/>

【お受取り・お支払い】

- セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。



### 電話予約

- 喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813

10:00~18:00  
休館日あり

【お受取り・お支払い】

- ① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

- ② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

### 窓口

- 帯広市民文化ホール チケットらいぶ (1階 事務局)

TEL. 0155-23-8111

〒080-0015 帯広市西5条南11丁目48番地2

【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。

- 喜多能楽堂事務局

TEL. 03-3491-8813

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

【お受取り・お支払い】 お支払いは現金のみとなります。

※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。  
※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

## ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・当面のあいだ水分補給を除き、飲食はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・帯広市民文化ホールはじめとするエリアはすべて禁煙です。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。
- ・盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。
- ・車イス席ご希望のお客様は、喜多能楽堂事務局にお問い合わせください。

## 観客席御案内

■ S席 7,000円 ■ A席 5,000円



## 会場案内図



帯広市民文化ホール (小ホール)

〒080-0015 帯広市西5条南11丁目48番地2  
Tel. 0155-23-8111 Fax. 0155-23-8112  
<https://www.obihiro-foundation.jp/shisetsu/bunkahall/>



- JR帯広駅南出口より徒歩5分
- 帯広市民文化ホールのご利用において、お車で越しの方は長崎屋帯広店様の駐車場3階、5階、屋上をご利用いただけます。無料でご利用いただけます。利用時間は、9時~22時になっており、時間帯によって利用可能な駐車場入口が異なりますのでホームページ内「駐車場のご案内」をご確認ください。



# 日本全国 能楽キャラバン！ in とかち帯広 とかち帯広能楽 喜多流公演

令和五年 十月八日(日) 十四時始  
帯広市民文化ホール(小ホール)

おはなし 塩津圭介

素謡

翁 粟谷明生  
千歳 大島輝久  
狩野祐一  
狩野了一  
長島 茂  
金子敬一郎

舞囃子

高砂 シテ・住吉明神 塩津哲生

大鼓 亀井洋佑 太鼓 梶谷英樹  
小鼓 飯富孔明 笛 栗林祐輔  
地謡 狩野祐一 佐藤 陽  
谷 友矩 大村 定  
金子敬一郎

狂言

寝音曲 シテ・太郎冠者 山本則秀 アド・主 山本泰太郎  
後見 水木武郎

能

休憩(二十分)

子方・源義経 塩津希介  
後シテ・平知盛の霊 塩津圭介  
前シテ・源静

船弁慶 ワキ・武蔵坊弁慶 宝生常三  
ワキ連・義経の従者 館田善博

大鼓 亀井洋佑 太鼓 梶谷英樹  
小鼓 飯富孔明 笛 栗林祐輔

アイ・都の者 山本凜太郎

後見 塩津哲生 金子敬一郎 狩野祐一  
金子龍晟 狩野了一  
佐藤 陽 粟谷明生  
大島輝久 大村 定  
谷 友矩 長島 茂

附祝言

終了予定時刻 十七時頃

—— あらすじ ——

「翁」(おきな)  
「翁は能にして能にあらざ」と言われ、戯曲的な構成は無く、天下泰平、国土安穩、五穀豊穡を祈る儀式といえるものですが、今回は素謡(すうたい)の形式での上演です。  
神事に奉仕する心で勤める出演者と神事に参加する心の観客とが一体となって神聖な空間を共にするひとときです。

「高砂」(たかさぎ)  
肥後国・阿蘇の宮の神主・友成が都見物の途中、播磨国・高砂に立ち寄り海を眺めていると箆を手にした老人夫婦がやってきて友成に「相生の松」の謂われを語ります。そして自分たちこそ高砂と住吉の神であることを明かし、住吉で待つと言いつつ小船に乗って沖に消えていきます。友成が老人を追って住吉に着くと月光の満ちる浜辺に住吉明神が現れ颯爽と神舞を舞うのでした。  
天下泰平、国土安穩の祝意のこめられた能を代表する演目として広く親しまれている一曲。今回は舞囃子(まいばやし)の形で住吉明神が顕現する後半最後の場面の上演です。

「寝音曲」(ねおんぎょく)  
太郎冠者の謡いを耳にした主人が冠者に謡えと命ずるが、今後再々謡わされてはかなわないと、冠者は酒を飲まなければ謡えない、女房の膝枕に横になってでなければ謡えないと嘘をつきます。それではと主人は冠者に酒を飲ませ膝を貸し、冠者はその上に横になって謡を始めますが……  
謡っている冠者の頭をもちあげると声がかすれ、下ろすとまた謡い出す、役者の技の見どころです。

能「船弁慶」(ふなべんけい)  
平家追討後、兄頼朝に追われる身となった源義経一行は、西国へ落ちのびるため、摂津(兵庫県)の大物浦に到着します。義経の愛妾、静御前(前シテ)もここまで一行を追ってききましたが、武蔵坊弁慶は義経に、静御前の同行を留めるよう進言します。義経の了解を取りつけた弁慶は静御前にその旨を伝えますが静は納得せず、直接意を伺おうと義経の宿までやってきます。  
義経が都へ帰るよう諭すと静は悲歎の涙にくれるものの、君命とあれば従わざるをえず、名残の酒宴で静は舞を舞うとやがて一行は出発の刻限を迎え、静は別れの涙に咽びながら去っていきます。  
義経一行が船に乗って海上を進むうち怪しい風が吹き始め、穏やかだった波は俄かに荒れ出し、波間から西国で滅びた平家一門の亡霊が現れます。  
平知盛の亡霊(後シテ)は、長刀を振りかざして義経に襲いかかりますが、義経はたじろぐことなく立ち向かい、亡霊は弁慶の祈祷によって退散、再び波間に消えて行くのでした。  
前半では悲哀を湛えた女性、後半では勇壮な武士という対照的なシテの役柄を一曲の内に堪能できる人気曲。能の眼目である舞も、前半の静御前が別れの宴で舞う「序の舞」の「静」と後半で知盛が舞う「舞働」の「動」が対比されます。  
また後半にかかる海上の場面では、狂言方が竿一本で辺りの景色が一変する様子をありありと演じます。